



国際通貨基金

対外関係局

(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/250
即時解禁
2012年7月6日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 危機へ協調的対応を求めるとともに、日本の役割を称賛

本日、クリスティーヌ・ラガルド国際通貨基金 (IMF) 専務理事は、継続する世界経済危機に対し、これまで以上に政策協調が必要だと述べた。これに関連して、ラガルド専務理事は、日本の国際協力への多大なる支援に賛辞を送った。

2012年10月に東京で開催される年次総会に先立って日本経済新聞社が主催した IMF・世界銀行総会記念フォーラムの演説の中で、ラガルド専務理事は次のように述べた。「残念なことに、ここ数ヶ月間で今後の見通しは悪化しています。先進国、新興国ともに経済活動が減速している兆候が見られます。」

ラガルド専務理事は、次の3つの分野において各国が政策の歩調を合わせる必要があることを示した。それらの分野とは、先進国における高い公的債務に対する対応、金融セクターの修復と改革、堅固で持続的、かつ包括的な成長の実現である。

各国の政策立案者がこれらの課題に取り組むにあたり、日本のパートナーシップ及び共同体の精神は国際社会の貴重な指針であるとラガルド理事は述べた。「グローバル経済が困難に直面したとき、あなた方は世界の仲間たちに力を貸しました。日本は他国に先駆けて IMF の増資に応じ、グローバル経済の更なる悪化に歯止めをかけるのに貢献しました」とラガルド専務理事は日本に賞賛の言葉を送った。

グローバル経済にとって引き続き欧州の情勢がもっとも差し迫ったリスクであることと変わらないものの、ラガルド専務理事は6月28日のサミットの結果に勇気づけられた。「サミットにおいては、喫緊の危機を克服すべく、ヨーロッパのリーダーたちは正しい方向に向かって大きな一步を踏み出すことに合意しました。」しかし、ラガルド専務理事は、断固として危機を克服し、安定性や成長に悪影響が及ぶことを避けるためには、さらなる前進が必要であるという点も強調した。

ラガルド専務理事は今回の危機はヨーロッパの問題に留まらないことも明言した。「今回の危機は、世界全体の危機です。現在のような相互に緊密に結びついている

ワシントン, D.C. 20431 ● 電話: 202-623-7100 ● ファックス: 202-623-6772 ● www.imf.org

世界では、我々は国内のことにだけ目を向けていては済まなくなっています。今回の危機は国境を越えて影響を及ぼしているのです。」

日本及びアジアの国々は、これまでのところ今回の危機に非常にうまく対応してきている。2008年以降の世界経済の成長のうち半分以上がアジア諸国の貢献によるものである。しかし、「このことがアジアは危機の影響から免れていることを意味しているわけではありません。アジアにおいても、ヨーロッパの危機に起因する影響が次第に現われています。」

ラガルド専務理事は、効果的な解決策を見出すために各国が協調することの必然性を主張した。各国が協調に向かっている例として、最近のヨーロッパ諸国の動きやマルチ化されたチェンマイイニシアティブを強化する決定を歓迎した。

また、ラガルド専務理事は、東日本大震災とその後の津波に襲われた後に、コミュニティ全体で勇敢にも立ち上がり、驚くべき適応能力を発揮した日本の人々と、目覚しい復興過程にある日本に感銘を受けたと述べた。

IMF・世界銀行年次総会が、日本が両機関に加盟して60周年に当たる今年10月に東京で開催される。総会に先立ち、ラガルド専務理事は、「全世界が日本のリーダーシップ、日本の精神、そして、日本の多国間主義へのコミットメントを期待することになるでしょう。かつてないほど、世界はこれらを必要としており日本を必要としています」と述べた。